



訪問看護だより

Vol. 11 (2023年 新年号)

明けまして
おめでとうございます。



コロナ、コロナで早3年ですが、感染対策を万全に、皆様がご自宅で安心して過ごしていただけるよう、スタッフ一同がんばりたいと思っています。今年もよろしくお願ひいたします。



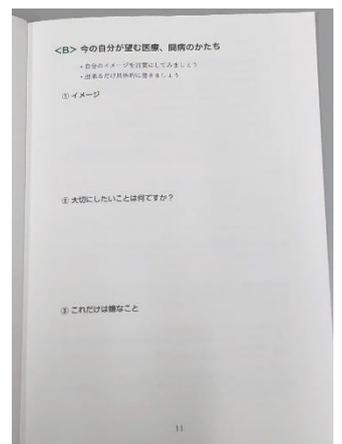
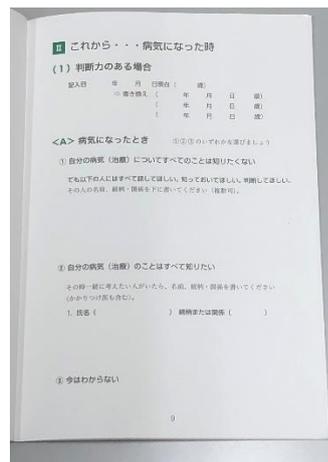
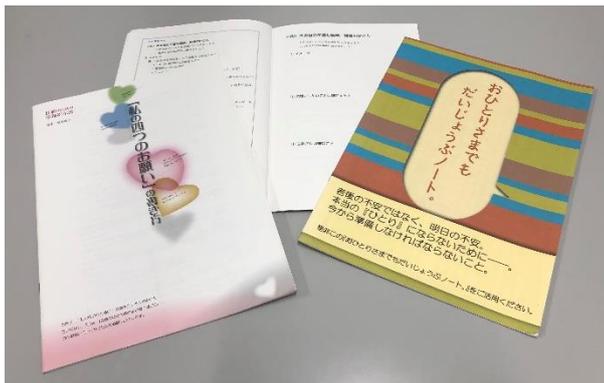
『人生会議』してみませんか？

これは、厚生労働省のホームページでもすすめられている、『人生会議』のすすめです。

『人生会議』とは、『もしものときの話を、前もって家族や親しい人とする』ことです。「もしもの時なんて縁起でもない」と思う方もいらっしゃると思いますが、これは『人生のしまい方』だけではなく『これからどのようにして生きていきたいか』を考える、『生き方』の話です。「**一年の計は元旦にあり**」と言います。

今までの人生を振り返り、これからの生き方を考えてみませんか？

その時参考になるのが『エンディングノート』です。すべて書かなくても、書きたい所、自分が大切にしたい所を書いておくと、ご家族が困ったときに助けになるかもしれません。



作品介绍



Aさんは定年退職後、能面の彫り方を習い、これだけの作品を作ったそうです。今は、脳梗塞の後遺症でうまく手が使えず作られていませんが、その時に使っていた彫刻刀を大切に持っておられます。60歳を過ぎてから習い始めて、これだけの作品ができるとは！もともと切り絵や絵を描いたりすることが好きだったとのこと。お部屋には、たくさんのAさんの作品が飾られています。



右の作品は、奥様の介護をされているご主人の作品です。ご主人も足が悪いのですが、医師に、足のためにも歩くように勧められ、目的もなく歩くのはつまらないから、とカッコウの良い流木を集めるようになったそうです。持ち帰った流木を焼いて表面の皮を剥ぎ、磨きをかけ、その後、ニスを塗って仕上げるそうです。介護の合間の時間で、自分の楽しみを持つことは体のためだけでなく、心の健康のためにも良い事ではないでしょうか。



利用者様のお宅を訪問させていただくと、利用者様・ご家族のお写真や作品を目にすることがあります。今までの生活や楽しんでこられた様子を見せていただくと、利用者様・ご家族にそれぞれの歴史があり、今があることを、当たり前のことなのですが、実感します。そして、振り返って今の自分の積み重ねが、これからの自分につながっていくのだと改めて感じます。



皆様の作品、思い出の品やお話など、訪問看護だよりにお寄せください。